

議長記者会見（第10回）会見録



日時：平成24年12月19日（水）
午後3時30分～3時45分

場所：県議会議事堂 議長応接室

記者会見を行う山田(憲)議長(右)と宮下副議長(左)

1 発表事項

山田(憲)議長： ご苦労様です。それでは、恒例となりました定例会が終わってからの記者会見ということで、今回もさせてもらいたいと思います。

○ 今議会を振り返って

今12月定例会、11月30日から始まりましたが、予想していたかどうかは別にしまして、国の総選挙が公示されるということがありました。いろんな意味で国のことも大事であります、幸いといえますか、議会日程を見ますと、公示日の4日が休会日ということもあり、議会日程はそのまま続けさせていただきました。国も大事でありますけども、我々も県政を預かっている以上、しっかりとした県政の課題に取り組むということで臨みましたが、一般質問、予算委員会を通じて通常どおりの時間もこなせましたし、議論もいろんな意味で新幹線の問題とか含めた中での議論ができたなと思っております。

特に、今回、議会関連の問題で、いわゆる地方自治法の改正の中での政務調査費、その問題が政務活動費ということになって、条例化もされたわけでありまして、その条例化の中では、まさしく透明化ということもその中に含まれるということでありまして、後は、マニュアルでの運用に進んでいくと思っております。

新幹線やら、国の選挙でもいっしょでしたが、原発問題とか、経済対策の問題とか、いろんな問題の中での議論というのは深まってきましたし、課題もでてきました。課題というのは、いわゆる新幹線のあと800日を切った開業に向けて、取り組みがもっと加速して欲しい。知事という言葉で言えば、今年は前進して、来年は加速という言葉もありましたけども、まさしくもっともっと加速して欲しいというご意見があったのかなと思っております。

また、あわせて、今日、決議をいたしました。北朝鮮のミサイルの発射、撃つ撃つと言いながら、発射すると言いながら発射しないのかなと一時そんなようなこともありましたが、結果的にはだまし討ちの形で早くなりました。それについては、我々としても全会一致で遺憾の意を表したということでもありますし、今後とも、いわゆる核弾道というものも含めて、もう少し注視していくことがあるかなと思っております。

衆議院選挙も終わりました。少し色合いがはっきりしたような県の中での結果でもありましたけれども、これはこれとして、石川県の中で精一杯景気・雇用対策を含めてしてもらいたいと思っております。

○ 平成24年の議会改革等の取り組み状況について

また、議会改革の取り組みということでもありますけれども、これにつきましては、まずは、一番最初に、広域連携ということで、第1回目の北陸3県の議員研修会を、前にもやるという報告はしましたが、11月6日にしいのき迎賓館でやらせていただきました。その中でも、富山県の副議長からも話がありましたが、「もっともっと3県の連携を深めて、関西と手を携える。関西に来て欲しいという問題を福井だけでは心許ないから、3県議会で」という話もありましたけれども、今いろいろ検討しながらですが、北信越にそういったものがありますから、改めて作るというよりも北信越の議長会を通じて関西とやるという形の方がより強力になっていいのかなということで議論をしているところであります。3県の議員研修の中でいえば、まさしく広域交流の3県が、例えば、ある人が金沢に1泊する、そして、2泊目は福井、富山に行ってしまうという本当の意味での連携というものを模索していく、そんなことが大事だということを講師の島田さんが言っておられましたけれども、まさしくそのとおりだと、九州でも成功をみたといいますか、やはり地域を越えてやること、それによって関東から来た人たちがもっともこの地域に訪れたいというふうになってということから言えば、3県の統一行動というのは重要だと認識したところであります。いずれにしても、もう800日を切った新幹線の金沢開業でありますから、石川県だけの泊まりでなくて、3県の泊まりというものも大いに考えていかなければならないと思っております。

改革推進会議がいろいろと議論をしてきまして、一番先には予算特別委員会の常任委員会化でありました。それがちょうど12月から始まりましてこの12月で1年たったということでありまして、概ね長老議員も含めて皆さんが質問されたということでもありますし、概ねうまくいっているのかなということでもありますので、また更に検討を加えながら、もっといいものが見えてくるのかなと。

これも前に報告いたしました。全国議長会が主催する議員の交流大会に、議会改革推進会議会長の木本議員が石川県の取り組みが良いということでパネリストになりまして発表をいたしました。常任委員会のやり方を何回か研修をしていく中で、三重県議会を視察し、あれ、私たちの方が進んでいるんだということがあった中での12月にとりまとめてやってきたことが、結構よその議会の人たちの関心をもつことがありまして、全国大会でも活発な議論がなされたというふう聞いておりまして、石川県が一番良い

ということではなくて、石川県の取り組みに対する興味といいますか、そういった成果に対するよその議員の反応が結構あったということでご報告させていただきます。

それから、広報広聴につきましては、今年7月に第1号が出まして、議会の終わった後ということで今度3回目が予定されていますけども、少しずつ少しずつそういった議会としての広報というものも県民にしていくと、その中には広報だけでなくインターネットの問題がありますけれども、インターネットにつきましては、今のところ一般質問、委員会がインターネットで流れておりますが、常任委員会もという話もありますけれども、これについては少し委員会の運営上の問題がありますから、もう少し検討する余地があるのかなと、と言いますのは、1人1人の発言の時間とかいろんなルールを明確化していない中ですと、混乱すると、パフォーマンスが過ぎますと、今度は時間とかいろんな問題があるものですから、そんなことも含めて検討する材料が多いということで、こんな時代でありますから、インターネットについてもどういった方法で県民に知らせることがいいのかを継続的に考えていくということになっています。

政策調査会につきましては、議員発議の条例化を目指そうということでもあります。議員がする条例ですから、はずれたような話でなくて、できるだけみんなの合意できるようなものでやろうということ、そういったことを含めたルールづくりが今少しまとまりましたので、先日、藤井会長と吉田副会長から答申をいただきましたけども、ようやくルールづくりができていく中で、行政と議会、行政がやる条例、議会で行政ができない部分をやる条例についてもひとつの一定のルールができたのかなと思って、これからはテーマとかいろんなものに対して検討していこうと思います。

議会も改革、改革とききましたが、成果があった部分、ない部分ありますけれども、時代に則した形でやっていこうということで、各会議で頑張っていますのでこれからもよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

4 質疑応答

山田(憲)議長：先ほど言ったように、木本議員が発表して、石川県の取組について、みんなが興味を持ったというのは、常任委員会でも毎月している県は少ない。ほとんどない。石川県だけぐらい。そういった意味で、結構まじめに石川県は取り組んでいるわけなんで、今のようにすることが当たり前になっていけばなんでもないんだけど、やっていない県はそんなにしていないから、そうすると結構進んでいるのではないかと。パフォーマンス的な問題は別にしても、それなりに、三重は三重のやり方があるし、石川は石川のやり方があるのかもしれないし、結構いい線いっているのかなと。こういうおとなしい県民性からみれば結構うまくいっているな。かといって、執行部とむちゃくちゃけんかするとか、そんな問題でもないし。

記者：福井と富山のやつは、あれは。

山田(憲)議長：福井、富山だけというよりも、新たに作っても、せっかく5県でしているのがありながら、金沢目線で3県だけで新たに作るよりも、せっかくあるなら全部応援団にして、新潟も長野も一緒にした方がよりいいのではないかと。こういうのは大きい方がいいし、関西とかもっと大きいから。そういう意味で、そういったことを5県の中でもっと議論して行って、そして、欲張った話でいえば、3県は足並みをそろえてするし、新潟にも声かけて、関西経済同友会とかいろんなどころと話し合いをする時にはその枠ですればいいし。もちろん執行部は執行部でするんだけど、議会はそういう対応でします。

記者：今はとりあえずこの3県で。

山田(憲)議長：3県はないんだ。新幹線に関する問題ではない。5県があるから、3県でという話があったけど、5県があるから、5県でそのまま。

記者：元の枠組みを使って。

山田(憲)議長：福井がやっぱり自分だけで関西と対応するには。

記者：大きい方がいい。

山田(憲)議長：もう一つはルートの問題、3つのルートの問題があるから。

記者：新潟は知事と足並みがそろわなかったりしますが、議会の方は。

山田(憲)議長：議会はバンバンだよ。それは大丈夫だよ。

記者：ルートの話は1県と関西は厳しいですか。

山田(憲)議長：そういう面が福井の一番心配するところ。そこは福井にしてもそうだし、我々にしてもそのルートが決まらない限り、いわゆる大阪までの問題が解決しない限り、その問題を共有しなければならない。

記者：関西、例えば滋賀とか京都、大阪、関西の議会と話す場というのはあるんですか。

山田(憲)議長：今のところ、促進大会、東京である大会に出てくるのは経済団体。正式に議会とする場は今のところない。ルートの的にいえば、関西も、橋下さんが知事の時「私がルートを決めてちゃんと持って行く」と提案していたけども、それがどうなったかというのはあるけど、いずれにしてもルートが決まるといのはものすごく大事なことなんだ。だから、大阪というか、関西の経済界は冷え込んでいる分、北陸との連携というのは、逆に我々が思っている以上に関西の方が危機感をもってやらなければという思いはある。うまく相思相愛になるように、関西と相思相愛になるようにうまく持っていく。政府が変われば、方針も変われば、もっと出てくるかなと思うけれども。

(以上)